

宮崎県庵川東入り江および他の浅海域で採集された トウガタガイ科貝類 2 種 – スジイリクリムシクチキレおよびクリイロヒダクチキレ –

三浦知之・三浦 渚

〒 880-0035 宮崎市下北方町

Abstract

A pyramidellid mollusk species was newly recorded from Iorigawa inlet, Southern Kyushu and other waters of Japan: *Styloptygma taeniatum* A. Adams, 1863. Soft body parts of living specimens were photographed. Another species, *Tropaeas castanea* (A. Adams, 1863) was recorded from Hitotsuba inlet, Miyazaki city.

はじめに

宮崎県と鹿児島県を含む日本の沿岸や海岸の底生生物の調査し、多様性の高いトウガタガイ科貝類を報告している（三浦, 2025；三浦・三浦, 2025a-c など）。得られた標本を宮崎県総合博物館に登録するため、再検討を行って順次報告する。本稿では宮崎県で採集されたスジイリクリムシクチキレおよびクリイロヒダクチキレを報告する。

材料と方法

材料は、宮崎県の干潟およびアマモ場などで 2005 年 7 月におよび 2024 年 4 月と 5 月に採集した。得られた標本は海岸から生きた状態で持ち帰って、可能な限り生体の軟体部を解剖顕微鏡下で観察した。70% Alcohol に保存して、超音波洗浄機を用いて付着物を除き、内肋の有無を確認するため、一部の標本は外殻を研磨して、殻の形態を観察した。

トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840

Turbonillinae Bronn, 1849

***Styloptygma* A. Adams, 1860**

スジイリクリムシクチキレ *Styloptygma taeniatum* A. Adams, 1863

(Fig. 1)

Styloptygma taeniatum A. Adams, 1863, p.235; Higo, Callomon, & Goto, 2001, p.128. fig. G4516. スジイリクリムシクチキレ 堀, 1996, p. 151, figs. 25, 26 as *Styloptygma taeniata* A. Adams, 1863; 堀, 2000, p. 705, pl. 351, Fig. 17; 堀, 2017, p. 1106, pl. 409, fig. 5 as *Styloptygma taeniatum* A. Adams, 1863.

採集記録 2024 年 4 月 10 日宮崎県門川町庵川東入り江西側漁港前（1 死殻）；2024 年 5 月 9 日延岡市北浦町岩礁海岸堆積砂（2）；2024 年 5 月 10 日同所（1）。

形態・分布・生態 庵川東入り江から得られた個体は殻高 5.0 mm, 殻径 1.3 mm であった (Fig. 1A)。胎殻は 2 層で、第 1 層の端が後生層に埋まり、90° (Figs. 1B, F, G) –135° (Figs. 1C, D) 異旋する。後生殻は最大 6 層で、各層の側縁はやや膨らみ、丸みを帯びる。体層は殻高の 34%, 殻全体に対する体層部分が大きく、次体層では幅に対する高さが 67% で細長い。やや薄い殻は紡錘形（蛹型）で、殻表では成長線が目立つ縦走痕となる。縫合は明瞭な V 字型の凹みとなる。各層の殻表にやや薄い赤褐色の色帯が 2 本あり、上下を白い地色に挟まれる。色帯の幅は小型個体ではやや太く、殻の白い地色が目立たなくなる。下の赤褐色帯は、

Miura, T. and N. Miura. 2025. Records on pyramidellid mollusk species from Iorigawa inlet, Miyazaki Prefecture and other shallow waters of Japan—*Styloptygma taeniatum* A. Adams, 1863 & *Tropaeas castanea* (A. Adams, 1863). *Nature of Kagoshima* 52: 21–23.

☑ TM: Shimokitakata-machi, Miyazaki 880-0035, Japan (e-mail: miurat@cc.miyazaki-u.ac.jp).

Received: 2 May 2025; published online: 7 May 2025; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-006.pdf

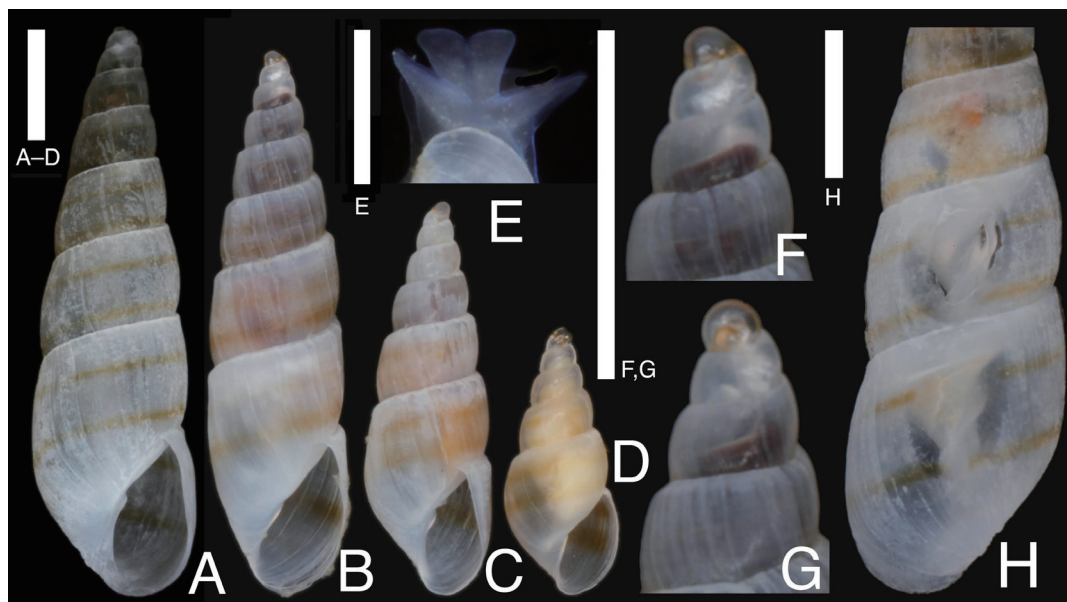


図 1. スジイリクリムシクチキレ *Styloptygma taeniatum* A. Adams, 1863. A. 2024 年 4 月 10 日に門川湾庵川東入で採集した最大の死殻個体，腹面；B & C. 2024 年 5 月 9 日延岡市北浦町岩礁海岸採集の個体，腹面；D. 2024 年 5 月 10 日同所で採集した小型個体；E. B 個体生時の軟体部，背面；F & G. B 個体の殻頂部，直交する 2 側面；H. A 個体の研磨した外殻，内肋がないことを示す。スケールは 1 mm を示す。

Fig. 1. *Styloptygma taeniatum* A. Adams, 1863. A. Dead shell specimen collected from Iorigawa inlet, Kadogawa Bay, on April 10, 2024, ventral view; B & C. Specimens collected from Kitaura beach, Nobeoka city, on May 9, 2024; D. Young specimen from the same site on May 10, 2024; E. Anterior soft body of specimen B, dorsal view; F & G. Enlarged protoconch of the same, two different angles; H. Abraded shell of specimen A to show the lack of inner spiral ribs. Scales = 1 mm.

体層や次体層では，縫合から離れてる傾向がある。口はやや狭い扇形で，明瞭な軸壁が 1 個確認でき (Fig. 1A)，その延長も殻内面に確認できるが，内肋を欠く (Fig. 1H)。

軟体部は，白色半透明で，頭部触角は三角形で，中央部がやや高く，先細で先端部は細くなる (Fig. 1E)。触角の付け根に大きく丸い眼が 1 対あり，眼 3-4 個分程度離れて位置する。口吻基盤は細長く伸び，先端中央に浅い窪みがあり，左右の前縁は丸みを帯びる。腹足は匍匐状態で先端が左右に拡がり，やや丸みを帯びる。軟体部全体にまばらに白色腺状の斑紋がある。殻を通して体層に確認できる外套器官は薄い黄色を帯びている。

Styloptygma 属は蛹型 pupoid で殻表のスジ状の成長線が目立つことを特徴として A. Adams (1860) により *Syrnola* 属などから区別され，20 種ほどが知られている (WoRMS, 2025)。日本からも複数種が報告されているが，本種は細長い蛹型の殻と螺層に 2 本の色帯を持つことで特徴づけられる。

Tropaeas Dall & Bartsch, 1904

クリイロヒダクチキレ *Tropaeas castanea* (A. Adams, 1863)

(Fig. 2)

Elusa castanea A. Adams, 1863, p. 237.

クリイロヒダクチキレ 堀，2000，p. 705，pl. 352. Fig. 22 & ? a living-specimen photograph；三浦，2008，p. 152. 3text-figs.；堀，2017，p. 1109，pl. 411. Fig. 8 as *Tropaeas castaneus* (A. Adams, 1863).

? オオクリイロヒダクチキレ 堀，2017，p. 1109，pl. 411. fig. 13 as *Tropaeas* sp.

採集記録 2005 年 7 月 9 日宮崎市一ツ葉 (1)。

形態・分布・生態 一ツ葉入り江から得られた個体は殻高 14.1 mm，殻径 3.8 mm であった (Fig. 2A)。胎殻は欠落して確認できなかった。後生殻は 11 層で，各層の側縁はややほぼ直線上であり，縫合は明瞭に窪み，肩はやや丸みを帯びる。体層

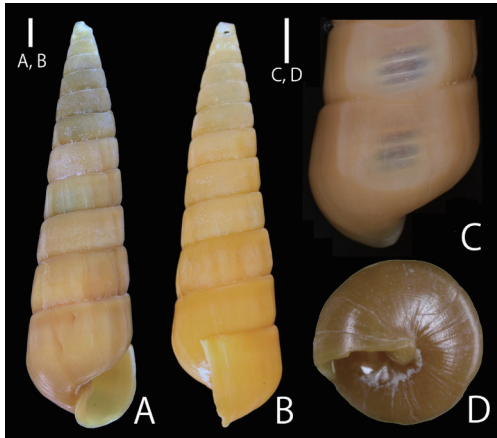


図2. クリイロヒダクチキレ *Tropaeas castanea* (A. Adams, 1863). A & B. 2005年7月9日に宮崎市一ツ葉入江で採集された個体、腹面および側面；C. 内肋を観察するために研磨した外殻背面；D. 殻底部。スケールは1 mmを示す。

Fig. 2. *Tropaeas castanea* (A. Adams, 1863). A. Specimen collected from Hitotsuba inlet, Miyazaki city, on July 7, 2005, ventral view; B. The same, lateral view; C. Abraded shell of the same, dorsal view; D. Base of the same. Scales = 1 mm.

は殻高の30%，殻全体に対する体層部分が多少目立つ程度で，次体層では幅に対する高さが53%で，それ以外の螺層では50%以下になり，やや扁平な螺層となる．殻は厚く，全体が薄い黄褐色で殻表には光沢があり，平滑である．縦張肋が明瞭で，各螺層に15本程度確認され，他にも成長線がみられる．体層，次体層などの螺層の内面には4本以上の内肋が確認できる(Figs. 2A, C)．口は扇形で，明瞭な軸壁が1個確認できる．外唇内面は平滑で歯や肋はみられない(Figs. 2A, C)．

引用文献

- Adams, A. 1860. On some new genera and species of Mollusca from Japan. *Annals and Magazine of Natural History, including Zoology, Botany, and Geology*. ser. 3, 6: 331–337.
- Adams, A. 1863. On the Species of Obeliscinae found in Japan. *Proceedings of the Zoological Society of London*. 1862: 231–238.
- Dall, W. H. & P. Bartsch. 1904. Synopsis of the genera, subgenera and sections of the family Pyramidellidae. *Proceedings of the Biological Society of Washington*. 17: 1–16.
- Higo, S., P. Callomon & Y. Goto. 2001. Catalogue and bibliography of the marine shell-bearing Mollusca of Japan. Yao. Elle Scientific Publications. 208 p.
- 堀 成夫. 1996. 萩市郷土博物館所蔵の山口県北部地方産トウガタガイ科貝類（軟体動物門：腹足綱：異旋目）の再検討. *Yuriagai, Journal of the Malacozoological Association of Yamaguchi*, 4(1/2): 139–162.
- 堀 成夫. 2000. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 702–729, pls. 350–363.
- 堀 成夫. 2017. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 1105–1123, pls. 408–422.
- 三浦知之. 2025. 宮崎県などで採集されたトウガタガイ科貝類ヌノメホソクチキレの記録. *Nature of Kagoshima*. 52: 11–13.
- 三浦知之・三浦渚. 2025a. 宮崎県門川町庵川東入り江で採集されたトウガタガイ科貝類－キンランホソクチキレ－. *Nature of Kagoshima*. 51: 269–272.
- 三浦知之・三浦 渚. 2025b. 宮崎県門川町庵川東入り江で採集されたトウガタガイ科貝類－ホソクチキレ－. *Nature of Kagoshima*. 51: 273–275.
- 三浦知之・三浦 渚. 2025c. 宮崎県門川町庵川東入り江で採集されたトウガタガイ科貝類コホソクチキレについて. *Nature of Kagoshima*. 51: 277–280.
- WoRMS. 2025. <<http://www.marinespecies.org>> (accessed 2025.3.24)